

令和7年度 中堅期看護教員スキルアップ研修会

日 程

1. 令和7年4月19日(土) 10:00～16:00
 2. 令和7年4月26日(土)、4月27日(日) 9:30～16:30
 3. 令和7年9月13日(土) 9:30～16:30
 4. 令和8年2月21日(土) 9:30～16:30
- 1.2.3 オンライン 4 対面 会場：アルカディア市ヶ谷（私学会館）

目 的

学校運営に関心を持ち、自らが視野を広げて役割を理解し、組織力向上に貢献できる人材育成

参加者数 38 名

講 師

令和7年4月19日(土)

水方 智子（日本看護学校協議会 会長）

松尾 睦 氏（青山学院大学 経営学部 経営学科 教授）

令和7年4月26日(土) 4月27日(日)、令和8年2月21日(土)

水本 徳明 氏（同志社女子大学教職課程センター 特任教授）

内 容

1. 中堅教員に必要な能力(講義)、経験学習と人材育成(講義、GW)
2. 看護学校におけるリーダーシップ(講義)、学校組織でのリーダーシップ上の課題は何か(演習)、組織の活性化につながるリーダーシップ(GW、発表)
3. 中間報告会(自己のリーダー行動計画の実践)
4. まとめの交流会(フィールドワークのGW・発表、最終まとめの講義・講評)

中堅期看護教員スキルアップ研修会は、「学校運営に関心を持ち、自らが視野を広げて役割を理解し、組織力向上に貢献できる人材育成」を目的に行われた。

4月に看護基礎教育の役割の再認識をし、成功体験の振り返りを人材育成に反映できる視点を学んだ。また、学校運営の中で中堅教員としてのリーダーシップ上の課題を理解し、勤務校でのリーダー行動計画を構想した。5月から8月は勤務校でリーダー行動計画を実施した。9月の中間報告会では、課題を踏まえた自己の実践を報告し、実施してみても課題を明確にしていた。9月から2月は、自身が立てた行動計画に基づいて希望校でフィールドワークを実施し、リーダーに必要な問題解決能力について学んだ。

2月に対面で中堅期看護教員スキルアップ研修会の最終まとめが行われた。グループ内で他校を訪問し目的に沿って学んだことを共有し、グループ発表は、授業と実践をつなげる大切さ、担当の役割の明確化、習熟度別授業、学生のモチベーションの維持と心理的安全性、多くの窓口での学生

支援の必要性、自分の気づきの発信の重要性、自校の強みへの気づきなど多様な内容であった。同志社女子大学の水本先生から、今年はそれぞれのチャレンジを発表するスタイルとなり、看護教育の状況の変化がわかる。今は一般の教育課程でも、講義を5年に1回は大規模に変える必要がある。私たちが取り組んでいる課題は「個人化・流動化する社会における看護教育のリデザイン」である。そこには、看護の変化、教育方法の変化、学生が変化していく中で、教育内容・方法、カリキュラム、学習組織・指導組織、研修・研究、組織の改善が求められる。しかし、個人化・流動化への対応(対処)の考え方と行動がばらけて、個業化と葛藤が生じているが、研修を通して選択肢の拡大と真正性(看護の本質)が大事であることを理解した。最終レポートから中堅教員の在り方として、「軸、器、ファシリテーション力、リーダーシップ、研究力、本質的に大事なことを問う」という言葉があった。特に「軸、器、哲学」は大事で、学校で「どういう看護師を育てたいか」という地図(意味形成)をつくり、哲学を持つ(人間として何が正しいのかと自らに問い、正しいものを正しいままに貫いていく)ことを大事にしてほしいという講評であった。交流会では、研修生は互いの努力をねぎらい、学びを共有する充実した時間となっていた。

令和8年3月3日

日本看護学校協議会 理事 岩田 正美（名古屋医専）